



ひとりひとりが心に平和のとりでを築く学びを



こどもが平和を主体的に学び、実践する機会を充実すべき。



歴史的事実を学ぶだけではなく、平和や社会のあり方を自分事として捉え、考え、話し合うことが大事。平和学習や主権者教育の充実に努める。

ヨーロッパや中東で戦争が相次いでいます。お金で平和は買えません。必要なのは「平和のとりで」、すなわち一人一人の戦争を決して受け入れない気持ちです。一方で日本は終戦から81年が経ち、戦争の悲惨さを直接知る人が少なくなっています。そこで大事なことは学びです。それは歴史の教科書を丸暗記することではありません。こどもが自分で問いを見つけ、答えを探し出すような主体的で探究的な学びのなかで自分事として平和を考えるべきです。一般質問で市長・教育長にその必要性を問いました。

平和の取組みを広げよう



森はな(1973)『じろはったん』。今でいう発達障害を持つ主人公が但馬を舞台に、戦争の波にのまれながら、力強く生きる物語。作中の挿話にちなみ、**タイサンボクの葉に平和の言葉を書く取組**が大蔵地域等で行われている。約1万枚の葉が福島県相馬市へ集められ、毎年3月11日に海岸から東日本大震災への鎮魂を込めて流される。

但馬人の意志を受け継ごう

第21回衆議院選挙(1942/4)は「翼賛選挙」として、戦争遂行に賛同する多数の候補者が国策として推薦され、8割の議席を占めた。その中で**兵庫5区は非推薦候補がトップ当選**となり、さらに過半数を占めた全国で唯一の選挙区である。特に斎藤隆夫は2年前の「反軍演説」で議員除名となっていたが、返り咲きを果たした。斎藤は偉大だが、その**斎藤を選ぶことで戦争という選択肢を拒んだ兵庫5区の有権者**をなお誇りに思う。

- 推薦が議席独占
- 推薦が過半数議席
- 推薦/非推薦同数
- 非推薦がトップ当選
- 非推薦が過半数議席
- 非推薦がトップかつ過半数



公式ポスター
獲得議席
85
381
大政翼賛
会推薦



斎藤隆夫

(1870-49)

出石出身、兵庫5区選出の政治家。翼賛選

挙では《東京より送り届けた八万数千枚の印刷物が、内務省の命令により全部差し押さえる》(『回顧70年』)等の**妨害**を受けるが、強い支持を得て**トップ当選**を得た。

Wikipedia上の沁水湾作成の地図を編集 CC BY-SA 4.0



こどもが動けば世界は変わる

原爆ドーム保存のきっかけは一人の少女の日記

だった。終戦後のドームは荒廃が進み、1951年8月の中国新聞で浜井信三・広島市長は「**金をかけてまで残すべきではない**」と述べた。一方、1歳で被爆し16歳で白血病で死亡した楳山ヒロ子さんは死の前年59年8月6日の日記に(原爆は)《二十世紀以降は忘れられて、慰霊碑に書かれた文字だけと、あの痛々し

い産業奨励館だけがいつまでも、恐るべき原爆を後世にうたえてくれるだろう》と綴った。この日記が死後「広島平和をきずく児童・生徒の会」の目に留まり、**子どもたちが保存運動に乗り出した**。ヒロ子さんが通っていた祇園高校の同級生の秋本栄子さん、三村照子さんらも校内で署名活動を行う。学校では「どうしてそんなことするの」「残す必要なんかないんじゃない」と反響はさまぎまだった。それでも1000人の署名が集まった。子どもたちの行動もあり、**市の態度も変わる**。66年広島市議会は「原爆ドーム保存を要望する決議」を全会一致で採択。世界で最も有名な戦争遺産として今も姿を留めている。参考)中国新聞社[編](1997)『原爆ドーム』、広島折鶴の会(1967)『爆心地：原爆ドーム保存運動の中から』

記憶を記録で伝えよう

1945年3月19日午後、播但線香呂駅手前の犬飼付近で列車が米軍グラマン戦闘機の機銃掃射に遭い、乗客20名と住民1名が死亡した。地元を取材すると90代の住民の方にお話を聞くことができた。「友達といたら鶴野の方から米軍の飛行機が来て、見に行こうって向かったら3機くらいがかなり低空で旋回してきて、直後にバババババって列車が打たれた。これは大変だと驚いた。亡くなった方は金跡寺に、怪我した人は公会堂に運ばれた。」このような**記憶**をできるだけ**記録**に残すことが必要だ。**歴史を学ぶ**ことで私たちの**倫理観**は高められる。



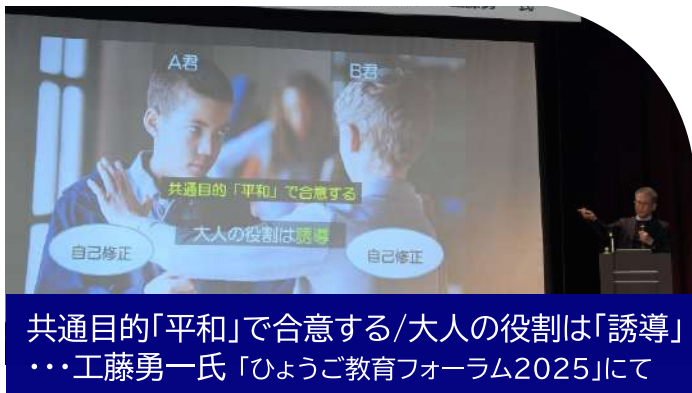
我慢でも暴力でもなく、話し合いで問題を解決しよう



こどもの争いをこどもが話し合いで解決することが平和への第一歩だ。



こども園では異年齢児との交流等を通じてお互いの立場を尊重する経験を積んでいる。小中学校でも友達同士の意見の違いやトラブルを通じて、お互いの気持ちや考えを伝え合いながら、話し合いによって解決していく学びを実践している。



平和とは争いが起こらないことではなく、**争いが話し合いで解決される状態**だと加藤は考える。こどもの争いは日常茶飯事だ。争いがあったとき、親や教師がこども同士の話し合いによる解決を導けるかが大事。そのためには、こどもが**意見を表明する権利**を与えることが必要だ。そうしないと我慢するこどもしか育たない。こどもが積極的に対話をして、自分たちの問題を自分たちで解決することで、こどもは**自己肯定感**をもつ。それがひいては、平和で民主的な社会を築く力につながるはずだ。

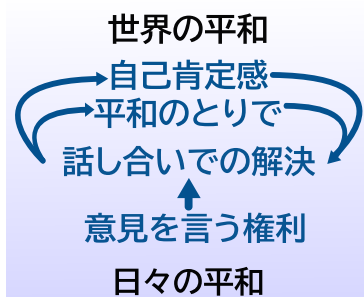
朝来市は昨年12月に**こどもまんなか宣言**をした。こどもの権利の尊重、こどもの意見の反映等を通じた市政・教育が推進される。早速、**部活動の地域展開、生物多様性戦略の策定、生野駅東口待合室の改修事業**などでこどもの意見聴取・反映が実践されている。一方で、現在進められている小学校の**スクールバスの運行地区の拡大**についてもこどもの意見聴取をすべきではないか、と加藤は問うた。市長は、通学の安全や児童の負担を考慮し、運行範囲については行政で判断すべきものと述べた。加藤は、徒歩通学はこどもにとって豊かな体験であり、その権利に対してこどもに**意見表明の場を与えるべき**と訴えた。



こどもも政治を自分事に

2月14日、常翔学園中学(大阪市旭区)の「**模擬選挙**」の授業を見学した。国政政党から国会議員をはじめ現役の政治家が8名登場し、中学3年生約100名に向かって15分ずつ演説した。積極財政か緊縮財政か、手厚い福祉か自由主義か、防衛費拡大か否か、外国人受入拡大か否かなど、**各党の主張は分かれる**。その後は小グループで質疑応答。「減税で具体的に家計はどのくらい楽になるのか」、「企業への課税を強化したら働く意欲が削がれるのでは」など**率直な意見が飛び交う**。その後、未来を託したい候補へ投票を行う。このような取組から社会を作る若者が育つと加藤は感じる。

意見を言う権利が保障され、話し合いで解決するくせがつけば、こどもたちの心には自己肯定感とともに、**平和のとりで**が築かれる。ここに、**平和で民主的な社会**という学びの目標が達成されると加藤は考える。



戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に**平和のとりで**を築かなければならない。

ユネスコ憲章(1946)

教育は[...] **平和で民主的な国家及び社会の形成者** [...]の育成を期して行われなければならない。

教育基本法(1947) 第一条



息子が少年少女オーケストラに入団。1990年設立でOGOBが指導者となり良い循環を築いています。娘も英会話に入会。習い事は送迎や金銭面など負担が大きいですが、こどもたちが豊かな経験ができる朝来市にしていきたいです。



市長

私は、平和とは[...]、単に争いが**ない状態**だけを指すことではなく、**全ての人が安心して生活ができ、お互いが尊重しながら共に暮らせる社会**のことでありと考えております。(一般質問答弁)

互いを理解し、それぞれの立場を尊重し、知恵と勇気を持って**すべての争いを話し合いでなくす**ことを求めます。

朝来市平和都市宣言(2011)

